

# 「京都を学ぶセミナー丹波編」第6回（開催報告）

平成30年10月26日  
京都学・歴彩館  
075-723-4835

平成28年度から開始した「丹波の文化資源」研究プロジェクトの成果を、分かりやすく解説する「京都を学ぶセミナー【丹波編】」の第6回を、下記のとおり開催しましたので報告します。

## 記

■ 日 時 平成30年10月26日（金）13:30～15:00

■ 会 場 京都府立京都学・歴彩館大ホール

■ 参加者数 65名

■ 内 容

講 演 佛教大学 准教授 斉藤 利彦 氏

「撮影された丹波の田楽—紫宸殿田楽の映像記録撮影と西田直二郎—」

昭和の初め、丹波に伝承される民俗芸能の紫宸殿田楽が、ひとりの学者の熱意で撮影されました。京都帝国大学の西田直二郎が行なった田楽の映像記録撮影を紹介します。

## ■ セミナーの様子と当日の参加者の声

昭和ひとケタ代は日本の学術において“映像の世紀”のはじまりであった。京都帝国大学の西田直二郎は、昭和8年(1933)に福知山市の紫宸殿田楽など丹波地域をはじめとする近畿一円の田楽の映像記録撮影を行っている。講演では、田楽は平安時代末から南北朝期にかけて広く行われた芸能で、丹波地域はその宝庫であること、丹波地域とこの地域に伝承する田楽は西田文化史学を考えるうえでも、きわめて大きい位置を占めており、史学史的な意義も有していることについても言及された。

参加者からは「西田直二郎という学者の人物像が興味深かった」「歴史の発掘の大切なことがよく分かった」などの声があり、好評を得た。

